

たんぽぽ

発行者 川村 克彦

乙女小学校創立50周年記念

先月、29日に創立50周年記念式典を行いました。その際の式辞をお載せいたします。実際に発した言葉とは若干違いますが、ニュアンスは伝わるとと思います。

創立50周年式辞から

(時候の挨拶後) 本日ここに、多くの皆様のご臨席の下、小山市立乙女小学校創立50周年記念式典をこのように挙行できますことは、喜びのいたりです。そして学校運営協議会会長田口様、PTA会長田所様をはじめ、ご来賓の皆様にはご多用中に関わらずご隣席賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

本校、乙女小学校は、昭和50年に、間々田小学校からの分離校としてスタートいたしました。新校舎が建設され、19のクラス745名で、その歩みをスタートしました。開校当時から、保護者や地域の皆様に温かく支えられてきた本校も、昭和59年には児童数が1043名と千人を超えるまでになりました。翌年間々田東小学校と分離し、現在の学区となっています。これまでに4500名を超える卒業生を輩出し本日を迎えています。

さて、ここからは在校生の皆さんに乙女小ができた昭和50年を紹介します。昭和50年の出来事としては、新幹線が博多まで開通しました。まだ小山駅にも新幹線は通っていませんでした。また、遊び道具である黒ひげ危機一発ゲームが発売されたのもこの年です。おなじみのペヤングソース焼きそばやハイチュウもこの年に発売されました。はがきはこの前値上がりして今85円ですが、昭和50年は10円でした。カップに入ったお店で買うアイスは大体20円でした。そのような昭和50年に乙女小学校が開校しました。時代は、50年の間でも大きく変わるのですね。

では、皆さんが生きていくこれからの世の中。これからの世の中は、今まで以上に大きく変わるといわれています。乙女小ができてからの50年間の変化が、10年ぐらいで来てしまうかもしれません。みなさんがこれから生きていく世の中は「予測が困難な時代」といわれています。つまり想像もできない位だと言うことです。「予測が困難な時代」を乗り越えるために必要なことは、一人ひとりが主体的な社会の担い手として問題に向き合い、考え物事を柔軟に受け止め、大人も子どもも関係なく、一人ひとりができることに全力で取り組むことが必要であるといわれています。

だから今乙女小では、皆さんで考えていく授業を行っています。算数など、自分でまず考え、その後に友達の見聞聞いて自分の考えと比較し、そして自分の最初の考えにふり返り、自分の最初の考えがどうなったかを書くという授業を行っていると思います。先生に教わらなくても自分で考えていく。皆さんは、もうすでに予測困難な時代を乗り切るために進んでいるのです。今後も、皆さんが予測困難な時代を乗り切れるように先生方一人一人が考え、みなさんの未来のために一緒に歩み続けていきます。

最後になりましたが、ご来賓並びに、保護者・地域の皆様には、これまでと変わらぬ愛情と温かさをもって、乙女小学校を支えてくださいますよう、一層のご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございます。

令和 6年11月29日 小山市立乙女小学校長 川村 克彦

2024年もお世話になりました。2025年4月からは、新生乙女小学校としてのスタートとなります。1月からの学校だよりは、新生乙女小学校に向けての進め方、考え方をお伝えしていきたいと考えております。よいお年をお迎えください。